

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (017201933), 法人名 (有限会社つながり), 事業所名 (グループホームつながり), 所在地 (旭川市北門町9丁目2644番地の36), 自己評価作成日 (令和2年2月12日), 評価結果市町村受理日 (令和2年5月26日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 1 column: 基本情報リンク先URL (http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kiho_n=true&Jigvsvocd=0172901233-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和2年4月27日(令和元年度分))

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の向かいには教育大学です。緑豊かな教育大学キャンパスでの散歩。近くの緑道(歩く散歩道)での散歩。自然に触れる生活を大事にしています。また施設近隣に医療機関、保育園、公民館、児童センターそしてスーパー、ドラッグストア、衣料品店、美容室などがあります。地域社会との触れ合いも同時に大切にしております。施設理念「生きていて良かった」のもと「食べることは生きること」「最後までトイレで・・・」「寝たきりにはさせない・・・」に、こだわり、その方の思いや願いに寄り添って生きがいのある生活(人生)の支援をさせていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は古くからの住宅地にあり、スーパー等の各種店舗にも恵まれた利便性の高い地域に立地している。事業所の向いは広いキャンパスの教育大学であり、保育園も近く地域的な和みの関係が維持しやすく、また学生向けのアパートや戸建の家屋が多いという静かな環境下に立地している。当事業所は鉄筋の2階建てであり、1ユニットとして9人の高齢者が生活を共にしている。設立は平成15年であるが、創始者が地域での生活を重視した老人住居を母体として発足し、より高い質的向上を求めて当事業所として指定を受けた経緯があり、建物も自立生活を指向した造りで、トイレや洗面台等が室内に完備された広めの居室となっている。当事業所の優秀な点は、複合的重層的多面的な視点での介護を目指している志向を挙げたい。具体的には、運営推進委員には、保育園や障害者事業所の関係者が常時含まれており、地域代表や家族も複数名で参加するなど、肩書に縛られない積極的な意思での推進会議となっている。また介護でも1ユニットの特性を活かし、一人ひとりの当たり前を当たり前に実施しており、看取り介護を含め理念に込められた「生きていてよかった」を日々取り組んでいる当事業所に、今後も大いに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果(該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果(該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes and their evaluation.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着サービスの意義を職員全体で確認。施設理念「生きていて良かった」のもと、チームケアを重視し、より良い介護サービスに向けて実践している。	創始者が決めた理念の「生きていて良かった」を職員一同に周知して日々のサービスの向上に結びつけている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	散歩や戸外に出かけて地域の方と挨拶を交わしたり、旬の野菜や果物の差し入れを頂いたり自然な形で交流。町内会にも加入し施設の行事(焼肉・消防訓練・コンサート)の案内もしている。	設立から17年を経過しており、散歩時の挨拶や事業所での勉強会の開催などで地域の一員として存在感を示し、日頃から交流を促進している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	平成29年度には北星・旭星地域包括支援センター様協力の元体操教室を実施。平成31年度には業者のかたにお願いして、紙おむつの当て方の勉強会など実施している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	検討或いは勘案事項については、話し合いを継続し深めサービスの質の向上に努めている。また、行事ごとの感想・意見を頂き次回に向け反映出来るように努力している。	包括センター、家族、地域役員の他に保育所職員や障害者法人の参加も得ており、複合的重層的に運営推進会議は開催されている。行事の説明等の他に、事故やヒヤリハットまで報告され、開かれた事業所としてサービス向上に取り組んでいる。	運営推進会議録は事業所内に閲覧として公表されているが、運営推進会議の特性と意義を踏まえ、議事録を全利用者宅に送付し、事業内容の周知と認知症介護の理解に繋げるよう期待したい。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催の研修会、説明会に参加。認定更新時は利用者さんの現状などを伝えながら、連携に努めている。	制度の解釈や運営について適時指導を受け、また介護保険の更新や区分変更の申請時に各種情報も交換しながら、信頼性の高い関係継続に努め、日頃からの協力体制を維持している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止推進委員会の名称から、身体拘束適正化委員会と名称を変更(H30、7/1)身体拘束廃止宣言を掲示。(2004.10/1)し拘束しない介護に努めている。2020年2月現在ご家族の希望、了承を頂き一名ベットで抑制を行っている。委員会で報告。1回目の検討も実施している。	身体拘束適正化検討委員会を設置し、指針を定めて3ヶ月ごとに開催している。事案は現状の介護内容の検証や事例検討等々で議事内容については、都度職員に周知徹底するなど、拘束も抑制もない介護を目指している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切なケア、言葉の暴力も虐待である。の認識のもとに防止に努めている。外部研修の他、スタッフ会議での研修報告や年2~3回の虐待関連の研修を実施している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度の対象者はいませんが、機会があれば参加したいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	当ホームのウ運営方針、起こりうるリスクも含め丁寧に説明。ご家族の理解と納得に努めております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に情報交換をし些細なことでも話せる雰囲気作りにつとめている。意見や要望は職員会議で共有し利用者さんの支援に繋がっている。(夏はドライブ・カラオケ店等・・・)	2ヶ月ごとに利用者家族向けにお便りを発行し、日常生活の様子を家族に伝えており、窓口でもいつでも意見や要望、苦情が貰える様に各職員は努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員とのコミュニケーションを大事にすると共に毎月のスタッフ会議の中で意見交換やアイデアなどを出す機会を作り運営に反映させている。	毎月の会議や申し送りで職員の提案や意見は聞き取っており、また小さな事業所の利便性を活かし、必要により年に複数回は管理者との職員面談の場も設定し、忌憚のない意見交換を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	利用者さん・職員との関わりを持ち現状の把握に努め、職員が働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の勤務年数や力量に応じて必要な研修の受講の確保に努めている。その他職員からの希望の研修会への参加にも協力している。会議の中で研修報告を実施しレベルアップに努めている。又社内研修も実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括センター主催の研修会・懇親会の参加。近隣の他施設との交流会などにも努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談の際に出来るだけ、本人の意向を聞き生活状況の把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用にあたっての経緯、苦勞されてきたこと、要望などを含めてよく傾聴し、入居前に見学やお茶・レクリエーションへのお誘いなどの呼びかけを実施している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の思いや希望を確認し必要な支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思い、希望を知る中でそれぞれが活躍できる場の設定を支援している。例えば一緒に調理したり食後の片付け、洗濯物の整理など生活の中で信頼関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にご家族と情報交換。つながり便りの発行(個人欄もあり)行事参加への呼びかけなど共に支えていく関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親しい人に会いに行く。或いは来訪して頂く。馴染みの場所。又はお店、墓参りなどご家族の協力を得ながら支援に努めている。	顔馴染みの人の訪問は、ゆっくり過ごせるように配慮し、墓参り等の外出なども家族と協力し合い支援しており、昔馴染みの関係性が閉ざされない、途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が調整役になり、気の合う方同士過ごせる場面を設定(散歩や食事)、役割活動をする中で支え合える関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられたり、退去後も来訪、電話、手紙などの交流をさせて 頂いている。中にはボランティアで定期的に訪問して頂いている方もいます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の関わりの中で思いや意向の把握に努めている。	利用者の日々を支えながら、思いや願い、希望と意向、好き嫌いを把握している。重篤な状態等で意思疎通が困難な状態でも、仕草や表情などから、また生活歴等から本人本位の生活になるように支援に臨んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	どのような生活を送ってきたか？今後の生活支援の為に ご家族や、利用者さんのお話の中から把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	23・24と同様、把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人ご家族の思いをよく傾聴。センター方式等を利用しながらご本人の思いを引き出し、毎月のスタッフ会議の中で意見交換をし、介護計画に反映出来るように努めている。	計画作成担当が中心となりモニタリングを含め介護のあり方についての提案を行ない、主治医の助言やスタッフ会議の中で検討したことを介護計画に反映している。病変等が生じた場合は、実情に合った介護計画になるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日誌・個別ケア記録・受診記録、職員の連絡ノートなどを活用し情報を共有し、話し合いのもと介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の宿泊時或いは会食時等の場所を提供。また希望により施設内でのご葬儀などの支援もしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員が推進委員。近隣美容室に依頼し出張して頂いたり、向かいの「大学祭」「公民館フェスティバル」保育園等の行事にも参加させて頂いております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所の協力病院の他、ご家族、ご本人が希望する病院の受診、往診が出来るように支援しています。	かかりつけ医は本人と家族の要望を優先して継続しているが、ほぼ協力医の往診を利用している。往診時は、職員が立ち会って明確な情報を伝え、医療面の安全を確保している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内に看護師を配置(非常勤)その他協力病院とは医療連携をし適切な受診・看護が受けられるように支援している。施設でターミナルを希望された方の訪問介護をお願いしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージの防止。可能であれば当施設で生活リハビリ出来るように医療機関、ご家族と相談しながら早期退院の支援をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所できていることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意向を聞きその上で医療機関と相談。ターミナル対応希望書を作成して支援方法の話し合いに活かしている。	入居・契約時に重度化の指針を説明し、書面にて確認を行っている。重度化し終末期となった場合、医師や家族、スタッフで再度話し合い希望に沿うよう支援しており、本人や家族の要望で今まで8人程度の看取り実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講師のの実施(平成29年実施)今後も定期的に研修を考えています。「心肺蘇生法、AEDの使用法」地域、推進委員、スタッフ参加する。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自衛消防訓練を2ヶ月に1回実施。春の訓練時は消防職員指導のもと、地域、推進委員、ご家族の方にも参加を呼びかけ実施。災害時の備品も順次購入し備蓄に努めている。水災害訓練も実施。(7月・予定)	2ヶ月に1度、避難訓練を地域住民に参加要請しながら実施している。また停電時を想定し冬季暖房用のストーブ等、必要な備品を徐々に揃え、不意の災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の思い、願いの把握。プライドを傷つけないようにさりげないケアをしたり、自己決定しやすい言葉かけに努めている。	礼儀は介護の基本であることを踏まえ、言葉使いや応接、プライバシーへの尊重等を日頃から気をつけるように徹底し、尊厳の重視に向けて臨んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に応じた言葉かけを心掛け、自己決定を出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の基本的な一日の流れはあるが、その方のペースを尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人のこだわり(スタイル)の把握。必要な支援を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事ごとにメニューを工夫している。例えば節分の恵方巻作りやお彼岸などのおはぎ作りなどもしている。日常的に調理(野菜カット・盛り付け)に参加している利用者さんもいます。	献立は1ヶ月分用意し、3食とも手造りを基本として提供している。調理や後片付けに参加する利用者もいて、できる範囲でお願いしている。また料理は季節感を大切に、温かさが伝わる内容となっており、利用者から好評を得ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分確保が必要な方の支援。トロミや刻み食、ミキサー食、栄養補助剤の活用などで対応している。一人ひとりの接種量の把握にも努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	現在歯科の居宅療養管理指導を5名行っている。その他の利用者さんには歯ブラシの声掛けや入れ歯の洗浄、消毒の支援を行っている。		
43	16	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	居室にトイレがあり「最後までトイレで!!」にこだわり必要に応じて二人介助の支援をしている。	トイレでの排泄を基本とし、排泄サインの共有によるトイレ誘導、時間による誘導等、その利用者個人に合わせた方法で、排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録。水分確保や軽い運動(体操・散歩)等予防対策をしている。冬の間はホール内を歩くなど・・・		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の好みの湯加減、仲の良い方同士での入浴等希望を聞きながら支援している。基本(週3回 火木土 ですが体調を見ながら2回の方もいます。)	火曜、木曜、土曜と週3回の入浴日を設定している。体調を考慮しながら個々に沿った入浴支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心地良い眠りの確保に向けて24時間の生活リズム作り。日中の活動と休息を考慮して支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が中心となり支援。薬の変更などは連絡ノードなどで回覧。個別に服薬綴りがあり職員が閲覧できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力が発揮できるように調理や裁縫のお手伝いをお願いしたり、施設内でのコンサートや地域の保育園等との交流などもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	アンケートを取ったり、日常の会話の中から情報を得、ご家族の協力など得て個別レクや施設外レク(カラオケや外食お花見など)の外出支援をしている。	日々の散歩を日課としており、向かいの大学構内を散策路として外出を楽しんでいる。またご近所のお庭を拝見したり、買い物に出かけたりと、体調や天候を考慮しながら、閉じこもらない介護に努めている。墓参り等の外出も家族の協力を得ながら支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族との話し合いのもとその方に応じた支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的にご家族に電話をする方、携帯電話でする方などその方に応じた支援を行っている。今年にご家族に年賀状を書いて出しました。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やホールに写真を飾ってみたり、ガーデニングの花を咲かせたり、季節の花を配置し楽しめる工夫をしている。	食堂兼居間は、開放感にあふれ、広く落ち着いた空間で、湿度や温度も適切に管理され、快適な居場所となっている。廊下や食堂の壁には利用者の作品が飾られ、また花々に囲まれた楽しい雰囲気の良い共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前にベンチ、ホールにソファを配置し思い思いの場所でくつろげる工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具・寝具など本人の使用していた物が持ち込まれその方らしい居室となるように努めている。裏に咲いた花を、それぞれの居室に飾って楽しんでいる。(花の咲く時期)	高齢者用の住居として造られた経緯があり、居室は広くトイレや洗面台があらかじめ用意されている。また居室には、昔馴染みの家財や小物類がそれぞれの思うままの配置で置かれており、落ち着いた雰囲気が感じられ、ゆっくりと過ごせるよう工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者さんの状態を考慮して手すりの設置やトイレ入り口にカーテンを設置したり、ベットや家具等の配置の工夫をし安全な環境作りに努めている。		